第1回ITを活用した教育センターワークショップを開催して

昭和大学歯学部長　宮崎　隆

このたび本学は、北海道医療大学および岩手医科大学と連携して、さらに各大学と関連する地域歯科医師会のご協力を得て、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」に平成24年度から5年間取り組むことになりました。

本取組では、ITを活用した教育センターを設立し、これまで各大学で取り組んできた能動型学習資源の改良とITを活用した超高齢社会に対応した歯学教育プログラムの開発を行い、実際の歯学教育に導入して教育効果を検証し、さらにプログラムの改良を継続的に行っていくものです。

超高齢社会の到来により、歯科医師に要求される資質が変わってきました。全身と関連づけて口腔を診ることができ、さらに基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行うことができる歯科医師が求められています。本取組では、基礎力をEラーニングで身につけ、臨床推論能力とコミュニケーション能力を仮想患者システムで養成し、さらに臨床における自己評価能力を電子ポートフォリオで高めます。ITを活用するので、いつでも多施設で教育とその結果を共有し、ステークホルダーである歯科医師会からも歯学教育に対する具体的な提案を頂戴することができると期待されます。

去る11月22日（木）に、4大学ならびに9歯科医師会から55名が参加して、第1回のワークショップを昭和大学において開催しました。ワークショップのテーマは「超高齢社会に対応できる歯科医師の養成」で、具体的な到達目標は、1）超高齢社会における社会のニーズを理解する、2）ITを用いた教育の特徴を理解する、3）それぞれの教育テーマに関するIT教材についてディスカッションするでした。

時間の制約上、非常に多くの内容を短い時間で討論しましたが、意欲ある参加者を迎えて実りあるワークショップになりました。今回の議論を経て、今後具体的なIT教材の開発に取り組む予定です。関係者の今後のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

最後に、ワークショップの準備と開催にご尽力いただいた歯学教育推進室と研究助成課、ならびにフォトセンターの皆様に感謝申し上げます。